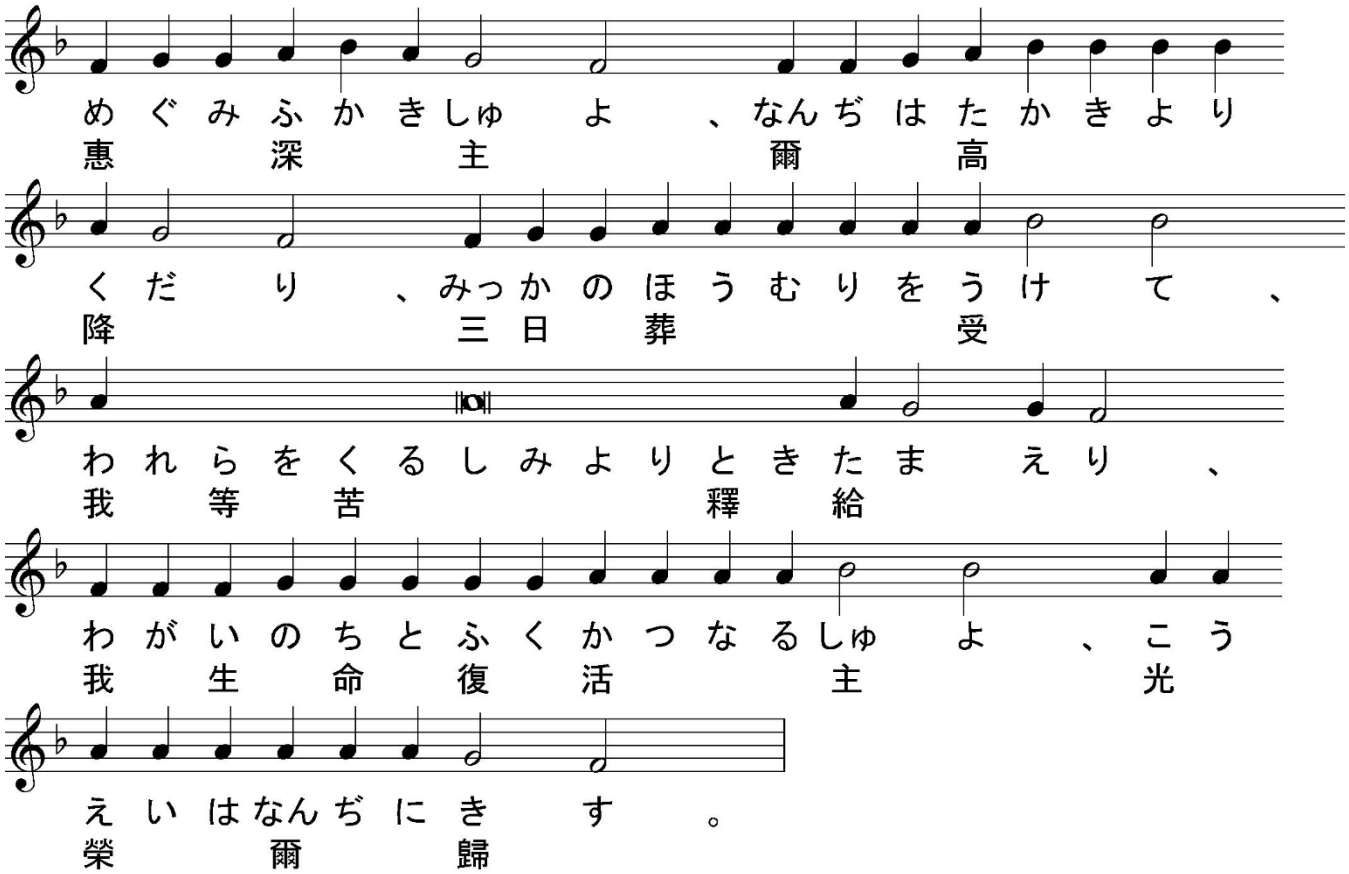
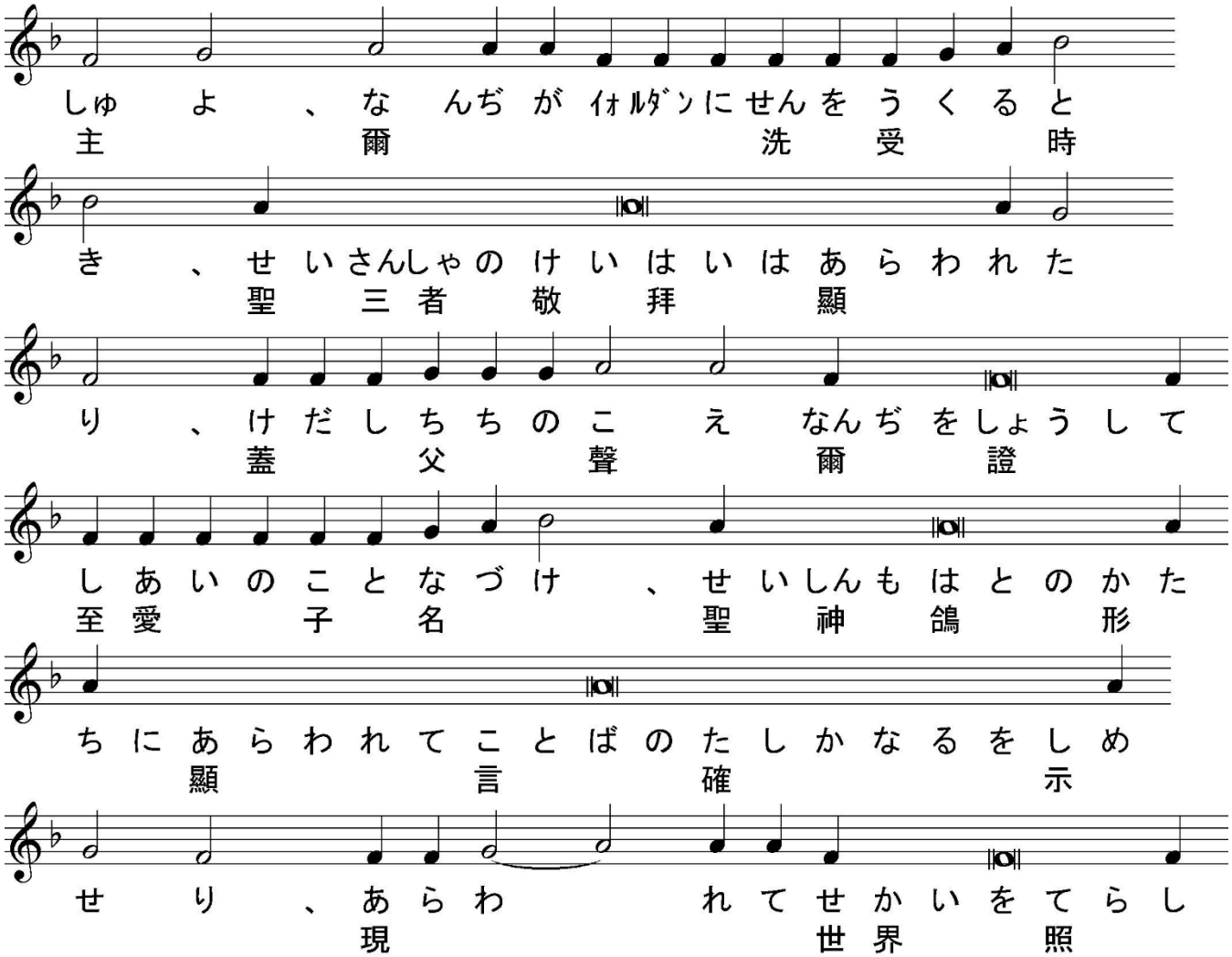
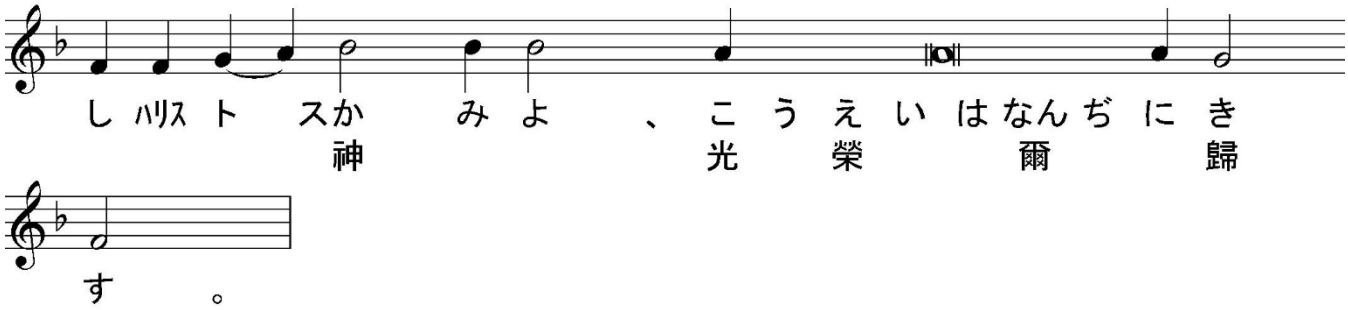
【　復活のトロパリ　第８調　】

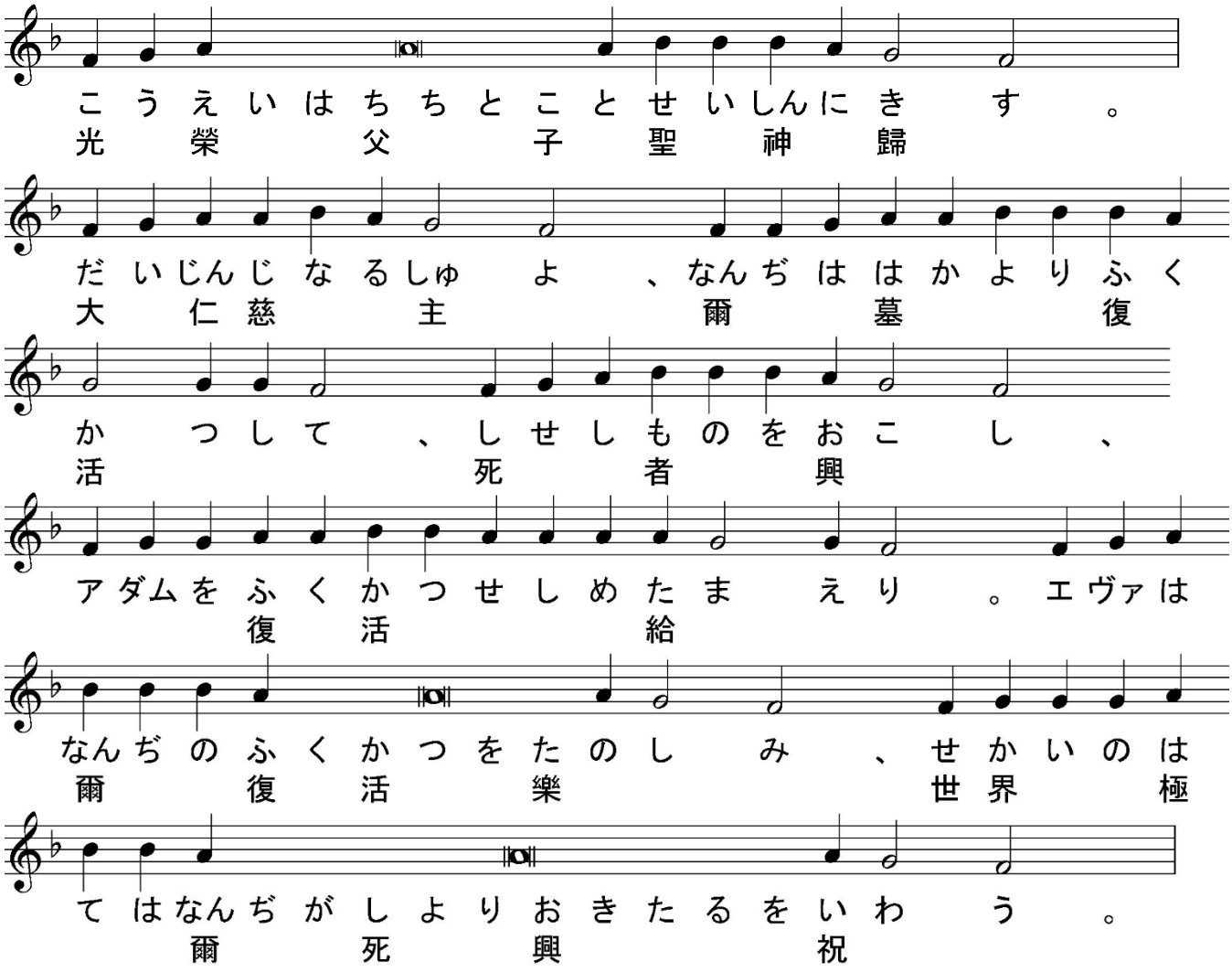


【　神現祭のトロパリ　第１調　】

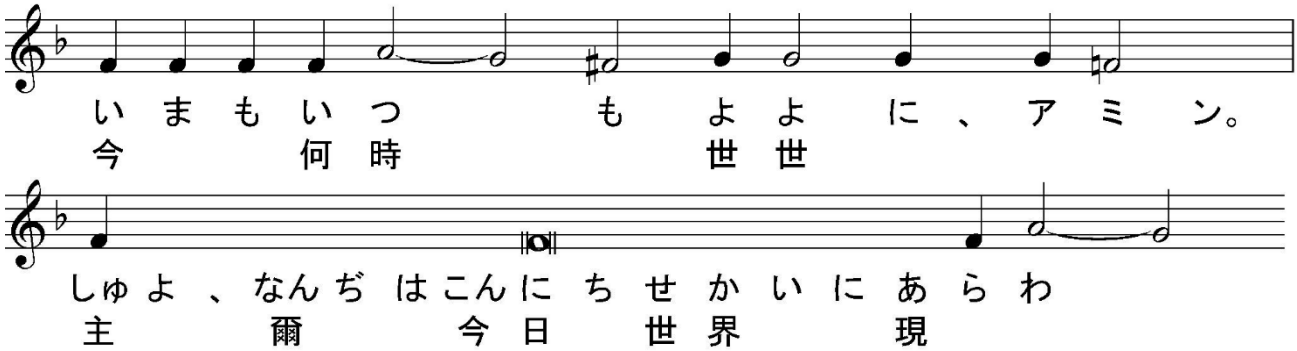


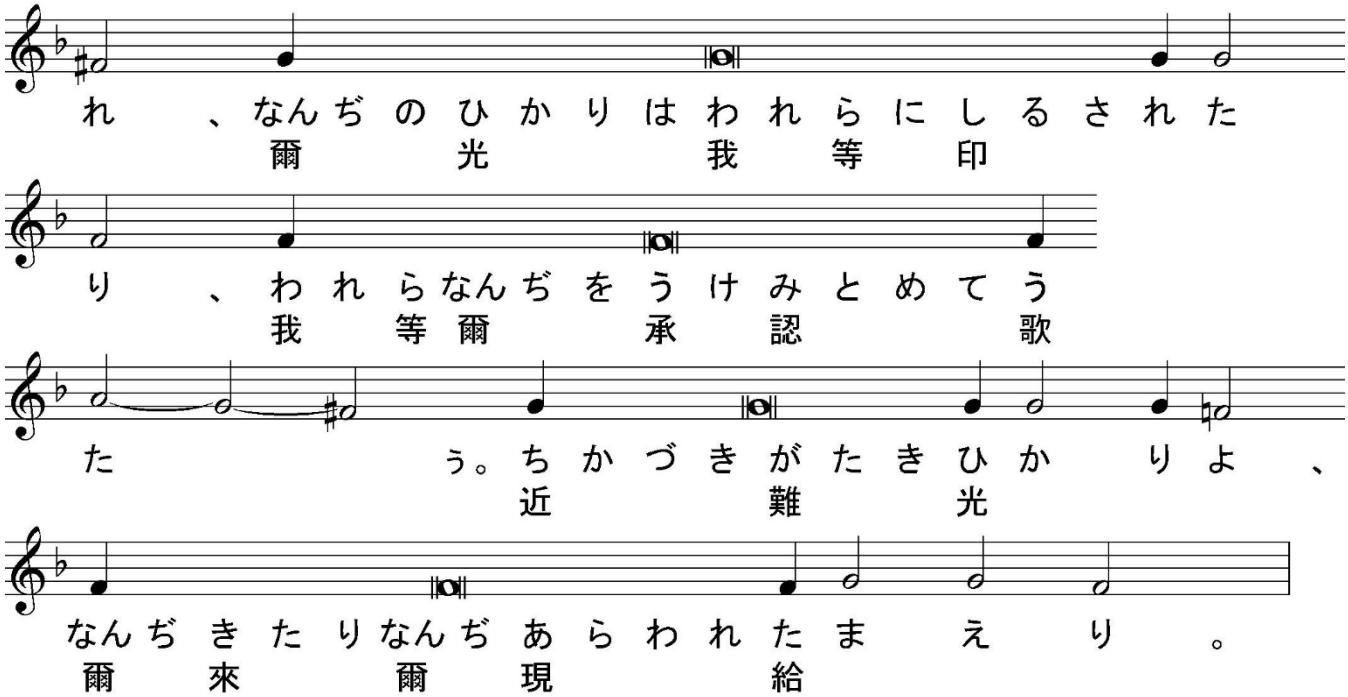


【　復活のコンダク　第８調　】



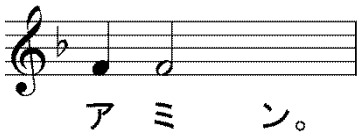
【　神現祭のコンダク　第４調　】





司祭)（ 黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、）

司祭) **蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、**



【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる
聖　神　聖　勇　毅　聖

じょうせいのものよ、われらをあわれめ
常　生　者　我　等　憐

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
聖　神　聖　勇　毅　聖

なるじょうせいのものよ、われらをあわれ
常　生　者　我　等　憐

めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
聖　神　聖　勇　毅

せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖　常　生　者　我　等　憐

れめよ。こうえいはちちとことせいしん
光　榮　父　子　聖　神

にきす、いまもいつもよよに、アミン。
歸　今　何時　世世

せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖　常　生　者　我　等　憐

れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
聖　神　聖　勇

き、せいなるじょうせいのものよ、われらを
毅　聖　常　生　者　我　等

あわれめよ。
憐

司祭）（　黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、　）

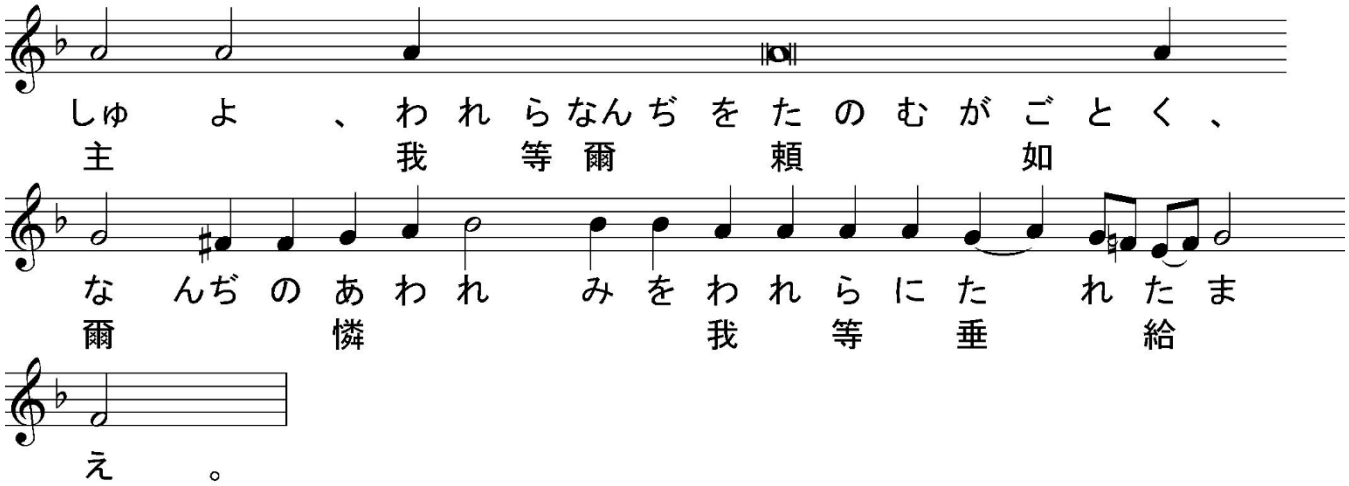
【　提綱　神現祭後の主日　第１調　及び神現祭　第４調　】

司祭）慎みて聽くべし、衆人に平安、

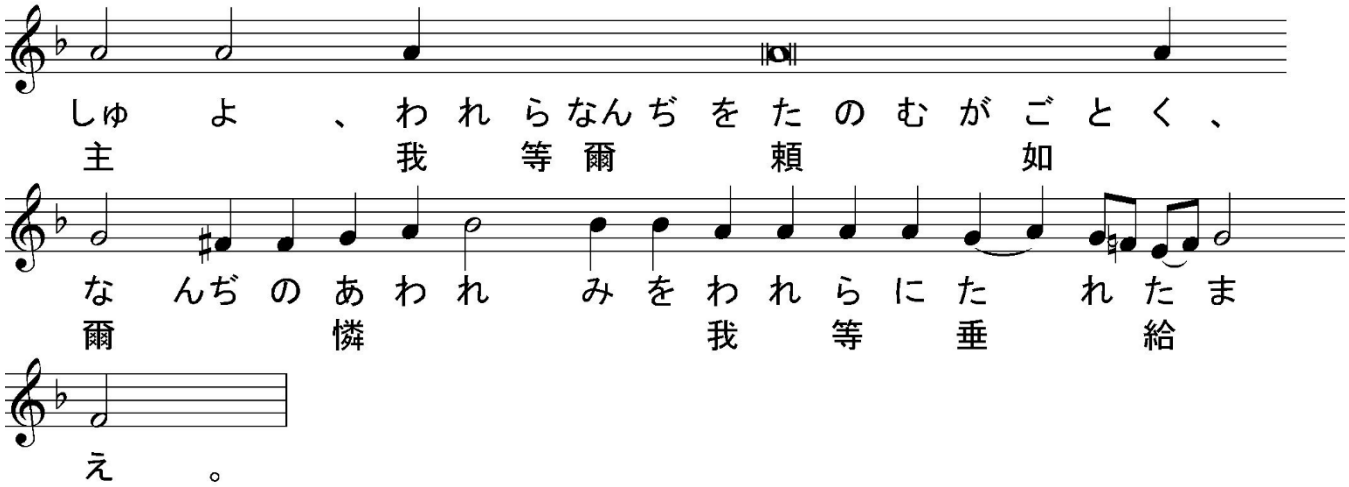
誦經）爾の神にも、

司祭）睿智、

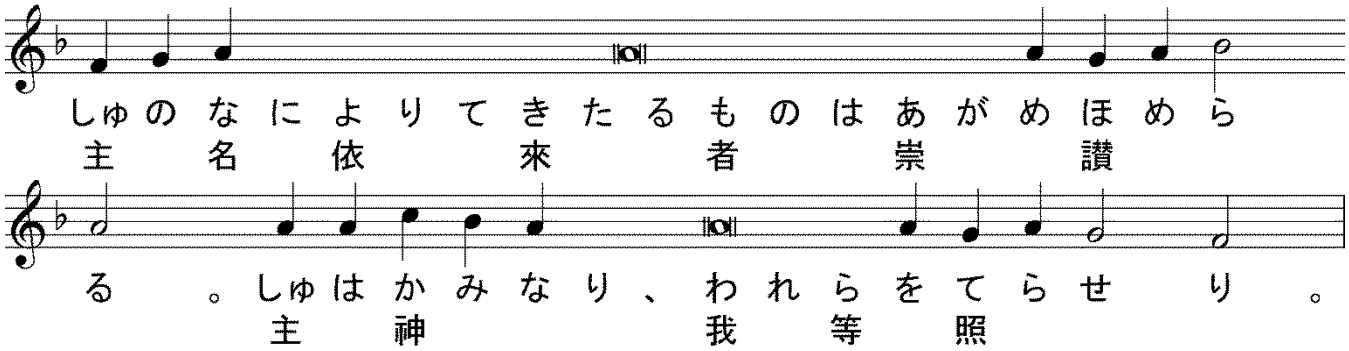
誦經）プロキメン、第一の調、主よ、我等爾を頼むが如く、爾の憐を我等に垂れ給え、



誦經）義人よ、主の爲に喜べ、讃榮するは義者に適う、



誦經）第四の調、主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、主は神なり我等を照せり、



【 使徒經（アポストロス） 224 半端 エフェス書 4 章 7～13 節 及び
285 端 ティモフェイ前書 4 章 9～15 節 】

司祭） 睿智（えいち）、

誦經） 聖使徒パヴェルがエフェス人（じん）に達（たつ）する書（しょ）の讀（よみ）、

司祭） 謹（つつし）みて聽（き）くべし、

誦經） 兄弟（けいてい）よ、我等各人（われらかくじん）に恩寵（おんちょう）の與（あた）えられしは、ハリストスの賜（たまもの）の量（りょう）に循（したが）うなり。故（ゆえ）に云（い）えるあり、高（たか）きに登（のぼ）り、擄者（とりこ）を擄（とりこ）にし、人人（ひとびと）に賜（たまもの）を與（あた）えたりと。夫（そ）れ登（のぼ）れりとは、彼（かれ）が先（ま）づ地（ち）の最下（もつともした）なる處（ところ）に降（くだ）りしを示（しめ）すに非（あら）ずや。降（くだ）りし者（もの）は、彼即諸天（かれすなわちしょてん）の上（うえ）に登（のぼ）りし者（もの）なり、此（こ）れ萬有（ばんゆう）を充（み）たさん爲（ため）なり。彼（かれ）が與（あた）えし者（もの）には、使徒（しと）あり、預言者（よげんしゃ）あり、福音者（ふくいんしゃ）あり、牧師及（ぼくしおよ）び教師（きょうし）あり、聖徒（せいと）を全備（ぜんび）せしめ、服役（つとめ）の事（こと）を行（おこな）い、ハリストスの體（たい）を建（た）てて、我等皆信（われらみなしん）と神（かみ）の子（こ）を識（し）る知識（ちしき）との一（いつ）なるに、成全（せいぜん）の人（ひと）と爲（な）るに、ハリストスの全（まった）き成長（せいちょう）の量（りょう）に至（いた）るに迨（およ）ぶ。

＊＊

（比較用　口語訳）兄弟たちよ、キリストから賜わる賜物のはかりに従って、わたしたちひとりびとりに、恵みが与えられている。そこで、こう言われている、「彼は高いところに上った時、とりこを捕えて引き行き、人々に賜物を分け与えた」。さて「上った」と言う以上、また地下の低い底にも降りてこられたわけではないか。 降りてこられた者自身は、同時に、あらゆるものに満ちるために、もろもろの天の上にまで上られたかたなのである。そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。

＊＊

誦經） 子（こ）ティモフェイよ、此（こ）れ信（まこと）なる全（まった）く受（う）くべき言（ことば）なり。蓋（けだし）我等（われら）は此（これ）が爲（ため）に勞（ろう）して謗（そしり）を受（う）く、乃（すなわち）活ける神（かみ）に望（のぞみ）あるに因（よ）りてなり、彼（かれ）は悉（ことごと）くの人（ひと）、特（こと）に信者（しんじゃ）の救主（きゅうしゅ）な

り。爾 此等の事を戒め且教えよ。人 爾 の年少きを以て輕んずべからず、乃 爾 言に、行に、愛に、神に、信仰に、潔淨に於て、信者の模範と爲れ。讀書と、勸諭と、教訓とを、務めて、我が來るを俟て。爾 に在る恩賜、預言に由りて、長老の按手を以て、爾 に授けられし者を忽にする勿れ。此等の事を思念し、專ら之を務めよ、爾 の上達が衆に顯れん爲なり。

＊＊

（比較用　口語訳）子テモテよ、これは確実で、そのまま受けいれるに足る言葉である。わたしたちは、このために労し苦しんでいる。それは、すべての人の救主、特に信じる者たちの救主なる生ける神に、望みを置いてきたからである。これらの事を命じ、また教えなさい。あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。わたしがそちらに行く時まで、聖書を朗読することと、勧めをすることと、教えることとに心を用いなさい。長老の按手を受けた時、預言によってあなたに与えられて内に持っている恵みの賜物を、軽視してはならない。すべての事にあなたの進歩があらわれるため、これらの事を実行し、それを励みなさい。

＊＊

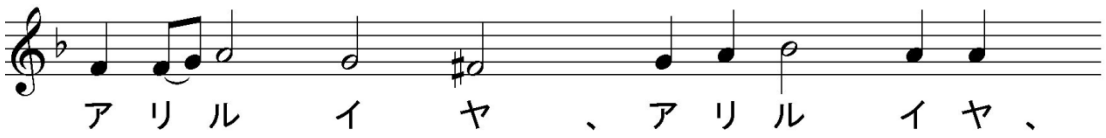
【　アリルイヤ　神現祭後の主日　第５調　及び神現祭　第４調　】

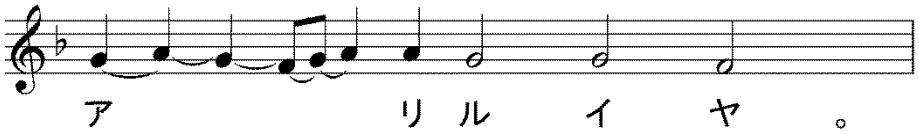
司祭）爾 に平安、

誦經）爾 の神にも、

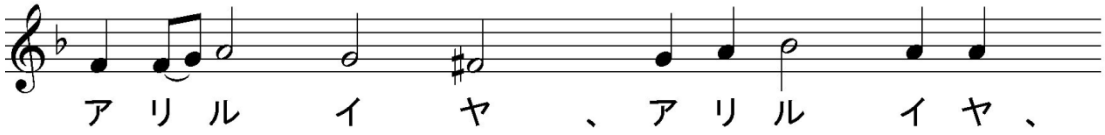
司祭）睿智、

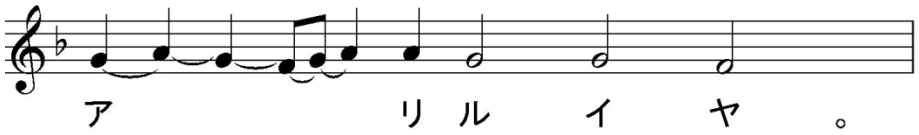
誦經）アリルイヤ、主よ、我永く爾 の慈憐を歌い、我が口を以て世世に爾 の眞實を傳えん、



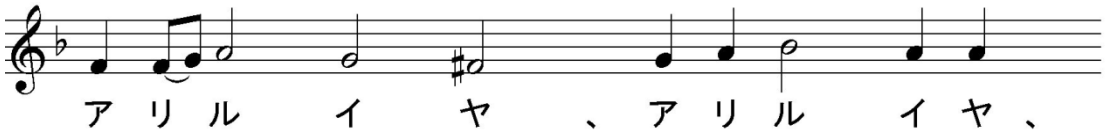


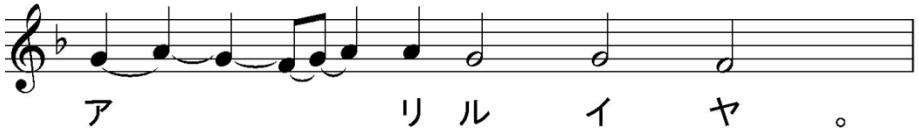
誦經）蓋 我言う、慈慈は永く建てられたり、爾 は爾 の眞實を天に固めたり、





誦經）神の諸子よ主に獻ぜよ、光榮と尊貴とを主に獻ぜよ、

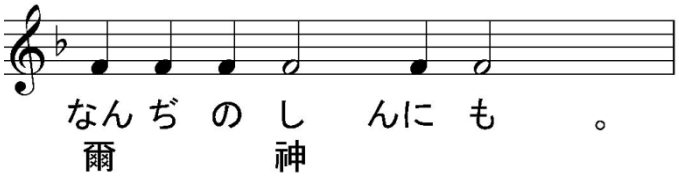




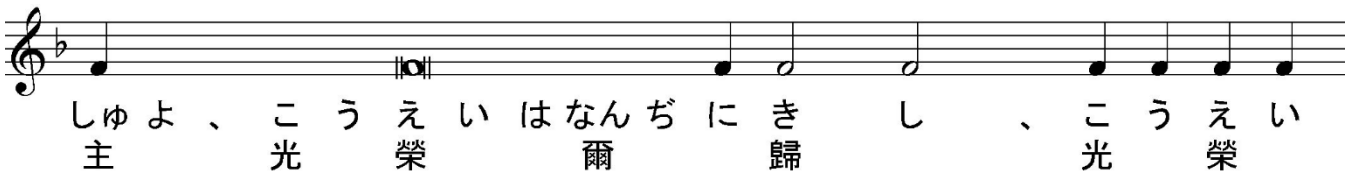
司祭）（ 默誦：人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誡を畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所を思い且つ行いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。 ）

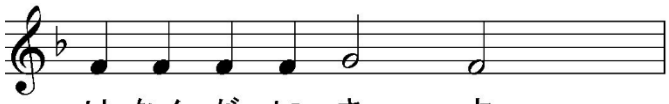
【 福音經（エヴァンゲリオン） マトフェイ福音書 8端 4章12～17節 及び
ル カ福音書 94端 19章1～10節 】

司祭）睿智、肅みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、



司祭）マトフェイ傳の聖福音經の讀、





司祭) 謹みて聽くべし、彼の時イイススはイオアンが囚われたりと聞きて、ガリレヤに去れり、ナザレトを離れて、ザヴロン及びネファリムの境の内なる海濱のカペルナウムに來りて、此に居りたり、預言者イサイヤを以て言われしことに應うを致す、曰く、ザヴロンの地、ネファリムの地、海濱の路にイォルダンの外に在る異邦のガリレヤ、幽暗に坐する民は大なる光を見、死の地及び蔭に坐する者に光は輝けりと。是よりイイスス始めて教を宣べて曰えり、悔改せよ、蓋天國は邇づけり。

＊＊

（比較用　口語訳）イエスはヨハネが捕えられたと聞いて、ガリラヤへ退かれた。そしてナザレを去り、ゼブルンとナフタリとの地方にある海べの町カペナウムに行って住まわれた。これは預言者イザヤによって言われた言が、成就するためである。「ゼブルンの地、ナフタリの地、海に沿う地方、ヨルダンの向こうの地、異邦人のガリラヤ、暗黒の中に住んでいる民は大いなる光を見、死の地、死の陰に住んでいる人々に、光がのぼった」。この時からイエスは教を宣べはじめて言われた、「悔い改めよ、天国は近づいた」。

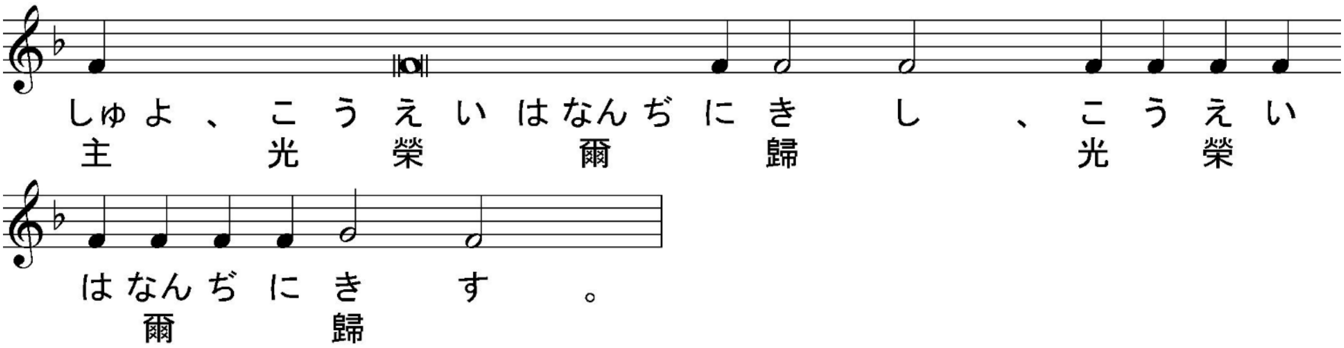
＊＊

司祭) 彼の時イイスス イェリホンに入りて過ぎ行けり。視よ、ザクヘイと名づくる者あり、税吏の長にして富める者なり。イイススの如何なる人たるを見んと欲したれども、人の衆きに因りて見るを得ざりき、身の長短ければなり。乃趨り前みて、彼を見ん爲に無花果樹に升れり、彼此の旁を過ぎんとすればなり。イイスス此の處に來りし時、仰ぎて、之を見て曰えり、ザクヘイよ、速に下れ、蓋我今日爾の家に寓るべし。彼急ぎ下り、喜びてイイススを接けたり。人皆之を見て、怨みて曰えり、彼往きて罪人の客と爲れり。ザクヘイ立ちて、主に謂えり、主よ、我所有の半を以て、貧しき者に施さん、若し誣いて人より收りしことあらば、四倍にして之を償わん。イイスス彼に謂えり、今日救は此の家に臨めり、此の人もアヴラアムの子なればなり。蓋人の子は亡びし者を尋ねて救わん爲に來れり。

＊＊

（比較用　口語訳）イエスはエリコにはいって、その町をお通りになった。ところが、そこにザアカイという名の人がいた。この人は取税人のかしらで、金持であった。彼は、イエスがどんな人か見たいと思っていたが、背が低かったので、群衆にさえぎられて見ることができなかった。それでイエスを見るために、前の方に走って行って、いちじく桑の木に登った。そこを通られるところだったからである。イエスは、その場所にこられたとき、上を見あげて言われた、「ザアカイよ、急いで下りてきなさい。きょう、あなたの家に泊まることにしているから」。そこでザアカイは急いでおりてきて、よろこんでイエスを迎え入れた。人々はみな、これを見てつぶやき、「彼は罪人の家にはいって客となった」と言った。ザアカイは立って主に言った、「主よ、わたしは誓って自分の財産の半分を貧民に施します。また、もしだれかから不正な取立てをしていましたら、それを四倍にして返します」。イエスは彼に言われた、「きょう、救がこの家にきた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである」。

＊＊＊



※聖体礼儀③（金口イォアン聖体礼儀）へ